

江上けん

被災者
ゼロを
目指し
ます!!

鎌倉市
「防災まちづくり」構想
地域・福祉・教育・行政の
連携づくり



防災士の経験を生かします!
防災は「顔の見える関係づくり」から
(^^)

防災士
無所属
52歳



プロフィール

1969年2月7日生まれ

長谷幼稚園卒園 横浜国立大学附属鎌倉小・中学校卒業 山手学院高校卒業
法政大学経済学部中退 読書好きが高じて古本屋を大船・追浜で起業。東京
海上火災保険の保険代理店業。現在は「一般社団法人江上空手道道友会」で
空手道の普及啓発活動を行う。

遊天空手道宮本塾五段允許 スペイン、イタリア、ポルトガルなどで指導
親英体道、呉氏太極拳、土佐英信流居合などを稽古
座右の銘「日々是稽古」 読書好きな、一男一女の父。

防災士

城廻自治会副会長兼防災防犯部長
城廻自主防災隊隊長
関小ブロック防災協議会運営委員長
玉縄地区防災会議事務局長
鎌倉養護学校運営協議会委員
福祉避難所運営 部会長
鎌倉防災だより企画編集委員
関谷小学校地区スポーツ振興会常任理事

鎌倉市「防災まちづくり」構想

「地域・福祉・教育・行政の連携づくり」



これが私が考える
「防災まちづくり」構想です。

一昨年の台風や、新型コロナウイルス感染症、必ず起こるであろう大地震が発生すれば、すべての人が被災者となり、その時こそ、支え合い、助け合うことが求められます。大切な命を守る、「防災」を考えながら地域づくりを行うことは、災害への備えになり、福祉や教育、行政との密接な関係づくりなど、人と人とが連携しあう「防災まちづくり」となるのです。

有事の際に困っている人を助けるのが「防災」です。平時に困っている人を助けるのが「福祉」です。未来の日本を支えていく子どもたちを育てる「教育」「防災」や「福祉」、「教育」の土台となる「行政」立場の違いや、組織の違いはあるけれど、動かしているのは、すべて人間です。一人一人の力は、とても弱いかもしれないけれど、団結すれば、大きな力となります。人々との連携こそが「地域」づくりです。

江上けんは
こう考えます。

防災 × 福祉

有事には高齢者や障害者、子どもたちなど、災害弱者を守るしくみが必要です。そのためには、平時から取り組みを続けている地区社協や民生児童委員、地域包括、青少年指導員や福祉施設、学校や自町連など、地域全体で連携しながら課題に取り組めます。

防災 × 地域

「顔の見える関係」は、防災力も強い“まち”です。あいさつのし合える地域は、防犯力も高いです。大人から子どもまで、お互いが支え合い、見守ることのできる“まち”を目指します。そのためには、自治会・町内会をはじめとした、あらゆるコミュニティ活動が大切です。人と人とのつながりの網の目を多く、細かくして、どんな人もこぼれ落ちないようにしたいです。地域の防災訓練だけでなく、お祭りやイベントなどにも積極的に参加して、いざという時に助け合える、「顔の見える関係」をつくりましょう。



防災 × 行政との連携

地域の防災課題は、地域ごとに異なります。それぞれの地域にあった防災対策をとるためには、行政と地域がしっかり話し合うことが必要です。「公助の見える化」を進め、自助を啓発し、共助が担うべき役割を明確にします。

防災 × 教育

子どもたちは、日本の宝です。学校、保護者、地域が一体となって、大切な子どもたちを育てていく必要があります。大切な命を守る防災教育は、必ずや自分や他者をいたわる心を育みます。相手の立場を思いやり、自分を大切にできる子どもを育てます。



私は誠実な
旦那さんを
全力で応援
しています。